

2024（令和6）年度事業報告

中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」の推進確認のもとに、2021年度からの5か年計画の4年次として、河北省保定市阜平県における取り組みの推進を行いました。教育交流派遣事業・支援事業・受入事業の展開へと結ぶことのできる草の根教育交流をより深く、多様に発展させることを目指して計画を進めました。2024年度は、早期に「役員訪中団」の派遣を行い、「視察研修訪中団」の派遣、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入、「第5回音楽教育交流会」の開催等の取り組みを進めようと計画しました。しかしながら、年度の早い時期に…と考えていた「役員訪中団」の派遣は、ビザ取得手続き等の遅れで、ようやく9月に実施できたという状況でした。それでも、5年ぶりの訪中ではありましたが、中国宋慶齡基金会との「教育交流プロジェクト」について、前向きな強い共同意識を確認することができ、また、今回のプロジェクトの推進地区である河北省保定市阜平県の体育教育局、職業教育訓練校、県立小学校の関係者と今後の教育交流について意見交換ができ意思確認が計れたことは大きな成果でした。結果として、教育交流派遣事業については「役員訪中団」の派遣を、受け入れ事業については「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受入についての確認を、教育交流の具体的内容としては「第5回音楽教育交流会」の開催等についての確認を、関係者行うことができました。また、教育交流支援事業については、宋慶齡基金会との協議を通して、4年次となる「音楽教育支援」を行いました。教育交流研究等助成事業については、学生の語学研修のみならず、ホストファミリーを中心に日中友好、相互理解の輪をも広げてきたホームステイ事業を、「第8回教育交流ホームステイ in 山梨」という形で実施しました。さらに、今年度は、長年の懸案であった、「田中一郎記念奨学基金」による、主に東南アジアからの留学生を対象とした、日本語作文コンクールを、「第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール」として実施しました。「第7回日中教育文化交流シンポジウム」の開催については、二部構成として、一部は、第6回シンポジウムの「日中教育交流の意義について、協会の今までの取り組みの検証も踏まえて考えよう」をさらに発展させる形で、「役員訪中団」の報告を踏まえ、教育交流の成果と課題を検証しました。また、第二部は、「第20回日本語作文コンクール」ともコラボした形で、6人の入賞者にシンポジストとして参加してもらい、日中の教育文化交流について考えました。協会が後援している「第20回日本語作文コンクール」については、例年のように作品の審査と「教育賞」受賞者の選定を行いました。また、リモートによる「第7回日中ユースフォーラム」にもコメント・討論者として参加しました。

1, 教育交流・派遣事業

今年度は、5年ぶりに訪中することができました。役員訪中団という形で、中国宋慶齡基金会と河北省保定市阜平県を訪れ、基金会においては基金部と、阜平県においては県当局、体育教育局及び教育関係者と話し合いを持つことができました。阜平県職業技術教育センター、阜平県白河小学校の見学を行った上で、協会からの教育支援がいかにかに有効に活用されているかについて、阜平県の関係者との話し合いを通して確認することができました。さらに、中国宋慶齡青少年科学文化交流センターの見学及びその後の話し合いにおいては、今後の「教育交流プロジェクト」をどのように具体的に進めて行くかの確認を行うことができました。

2, 教育交流・受入事業

「教育交流プロジェクト」の実実施計画の中で、今まで易県や東平県で行い、実績を上げてきた音楽教育を中心とする教育交流を柱として、「第6次宋慶齡基金会教育交流代表団」の受け入れについて検討していくことになりました。

3, 教育交流・支援事業

新たな「教育交流プロジェクト」の初年度として、河北省保定市阜平县への音楽教育支援を行いました。支援の規模としては、過去の取り組みと同じように、100万円/年で行っていくこととしました。阜平县職業技術教育センター訪問の折には、協会からの支援で購入された楽器を使って、演奏も行っていただき、また、楽器収納庫には、協会からの寄贈である旨がきちんと掲示されていました。また、阜平县教育体育局からの報告書に、阜平县の音楽教育の発展充実のために、協会からの支援が大いに役立っていることが記載されていました。

教育交流・研究等助成事業

①教育交流ホームステイ

外国人留学生は、年々増加しています。特に多いのは、中国からの留学生です。彼らは日本での生活の間に、より多くのことを経験し、また学ぼうと意欲に燃えています。そうした留学生に関わって、日中の教育交流及び文化交流そして強い相互信頼による結びつきを目指す協会の願いとしては、「日本を理解し、日本と母国との友好を担ってくれる人材により多く育て欲しい」と、言うことがあると思います。日本に留学している学生のほとんどは、日本語学校に通学していますが、特に入学初年度は語学力も十分でない上に、なれない異文化の中で、学業・日常の生活面で困難に直面している学生も多いと言われています。協会では、こうした留学生の語学力の向上をめざし、日本をより良く理解する人材を育成するために、教育交流・研究等助成事業としてホームステイ事業を実施しています。コロナ禍の影響により、2019年度の「第8回教育交流ホームステイ in 神奈川」の実施から、今年度の再開までに5年も経過してしまいました。この取り組みは、協会の事業として大いに意義があるという評価をいただいていたので、今年度「第9回教育交流ホームステイ in 山梨」として実施できたことは、大きな喜びです。

②日中教育文化交流シンポジウム

今年度は、二部構成にして、「第5回・第6回日中教育文化交流シンポジウム」の研修会的な要素を持った形式を第一部に、以前に行っていた作文コンクール等で日本との交流に意識を持っている学生とのシンポジウムを第二部として行いました。第一部は、昨年9月に実施した役員訪中団の成果の報告と今後の取り組みへの課題提起を代表理事のレポートを通しながら、討論形式で行いました。第二部は、第20回日本語作文コンクールで、最優秀賞・教育賞・一等賞を受賞し6名の中国人大学生の意見発表をもとに、日中の教育文化の交流をシンポジウムの形で行いました。このシンポジウムを通して「日中教育文化交流の意義」について、より深く検証し、今後の日中教育文化交流の展望や課題に焦点を当てるという成果を上げることができました。

③田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクール

今年度はついに、2024年度第1回田中一郎記念奨学基金日本語作文コンクールを実施しました。奨学基金の事業として、ここ数年来の懸案でした。中国人留学生以外を対象とする事業を展開し、具体的に日本語教育・日本との文化交流、そして就学の援助へとつながり発展する形での取り組みとして、日本語作文コンクールは大いに意義ある取り組みとなりました。沢山の作品の中から、10点を入選作品として選んでいただきました。そして、その入選作品の中から5点を、優秀賞として、公益事業検討委員の5名に、内容40点、文法30点、表現30点の合計100点満点で、採点していただき、その合計点で選出しました。どの入選作品を見ても、内容が素晴らしく、良い取り組みになりました。入選者には、以下の奨学金を表彰状と一緒に渡しました。★優秀賞（3万円）5名 ★入選（1万円）5名

④中国人の日本語作文コンクール

2024年度第20回日本語作文コンクール（日本僑報社主催、外務省・在中国日本大使館後援、朝日新聞社など協賛）には、中国のほぼ全土にわたる省市区の大学、大学院、専門学校、高校、中学校等182校から2,686本もの多くの作品が寄せられました。2004年度にスタートしてから今年度で20回を重ねました。この間中国全土の400以上の学校から、累計60,911本の作品が寄せられました。中国で最も影響力のある日本語作文コンクールへと成長し、中国での日本語学習促進・日本文化普及に大きく貢献してきたと思います。第20回のテーマのコンセプトは、「AI時代の日中交流」とし、それに沿ってテーマを①AI時代の日中交流—プラットフォームの構築を考える、②先輩に学び、日本語学習を頑張る、③私を変えた日本語教師—先生への感謝状、の四つになりました。テーマごとの応募数は、①には1,399本、②には478本、③には809本となりました。1次から4次までの審査を行う中で、最終的に、最優秀賞（日本大使賞）1名、1等賞5名、2等賞15名、3等賞40名、佳作賞258名となりました。★教育賞・日中国際教育交流協会賞（5万円相当）欧芊序（大連外国語大学二年生）林 婧（天津外国語大学二年生）

5. その他の活動

- ①今年度は通常の理事会を4回、評議員会を2回、監査を1回開催しました。
- ②広報関係では、2025年3月に『会報31号』を発行しました。「共生力」は、残念ながら発行しませんでした。
- ③財政確立に向けての賛助会員の取り組みは引き続き行い多くの協力を得ました。